

集中治療室（ICU）の紹介

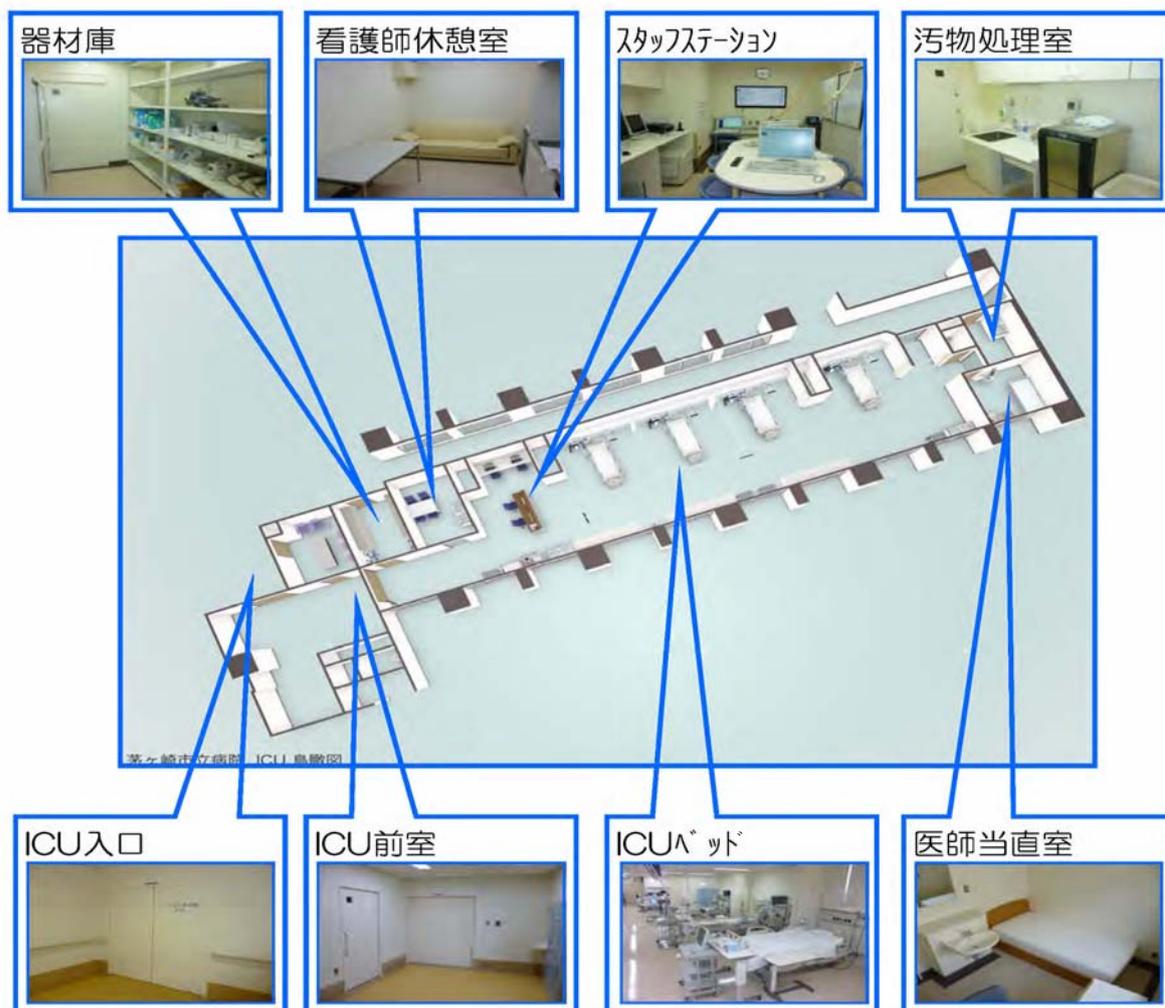
集中治療室看護師長 西村 智子

当院の集中治療室は平成23年10月にオープンしました。3階西病棟の病室を改装して設置され、効率よく動けるように設計や物品の配備は工夫されています。

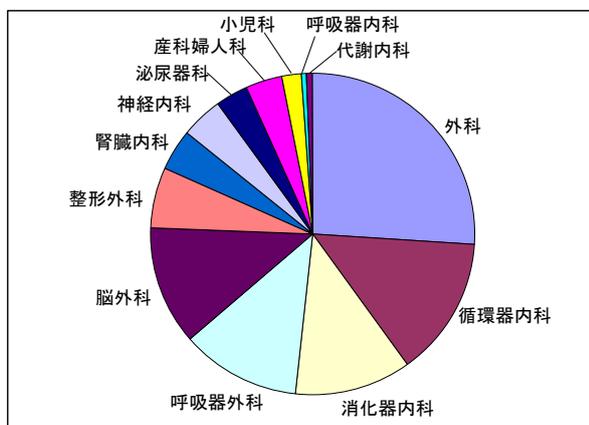
ここ集中治療室は、重症患者さんの対応に必要な医療機器を1箇所に集め、すぐに使用できる体制を整えています。重症患者さんの状態を24時間体制で見守り、より効果的な

質の高い治療・看護を提供することでその効果を期待する部門となっています。

そのため患者さんは外部から遮断され、医療機器に囲まれた時間を過ごすこととなりますが、重症度が高く、患者さんの安全・安静・治療が最優先されますので、面会の方にもご理解とご協力をお願いしています。



平成 23 年度の統計では、集中治療室の利用は、手術後の方が 55%、救急外来からの入院と病棟での状態急変による利用が 45%となっています。以下のグラフのとおり、様々な診療科に利用されています。



【平成 23 年度統計 科別入室患者割合】

ベッド数は 4 床となっており、専属の看護師が、常に患者さんのそばにいて、生体情報モニターに映し出される以外の表情の変化、体位の変化、呼吸音の変化、意識状態の変化などについても観察を行い、随時きめ細やかな看護を行うことができます。



【ベッド周囲】

集中治療室は医師・看護師の他にも、薬に関する問い合わせに迅速・的確に対応し、管理・提供を行う薬剤師、医療機器が安全で性能が維持できるように、保守・点検・整備まで一括して管理する臨床工学技士、呼吸・運動療法・嚥下訓練を行う理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、栄養管理計画書に基づいて栄養管理

を行う管理栄養士、レントゲンを撮影し、速やかに画像をコンピューターに反映させる放射線技師、脳波などの生理検査を行う臨床検査技師などさまざまな職種のチームワークで成り立っています。

そのため症例検討を行うための設備も整えられています。ここで話し合われる内容は、患者さんの治療方針は勿論ですが、本来の自然治癒力を最大限に発揮できるためのケア方針・ご家族へのかかわりや支援など多岐にわたり、その内容を日々の看護ケアに反映させています。



【大型モニターを使用した症例検討の様子】

集中治療室を利用される患者さんは内科系・外科系を問わずさまざまな病気の方となっています。そのため看護師は幅広い分野について学習会を行っています。今後もより良い看護が提供できるように知識・技術の向上に努めていきたいと考えます。



【学習会風景】